



2016年9月12日

博報堂九州支社、リサーチを通じて九州の生活者の意識を把握し

「これからのしあわせ」を九州の人々と共に発想していく活動体

「九州しあわせ共創ラボ」を発足

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：戸田裕一）の九州支社（福岡市博多区、支社長 釘町豊）は、様々な調査を通じて九州の生活者の意識を把握し、これからの時代の「しあわせに繋がるアイデア」を九州のみなさんと共に発想することで、九州をさらに活性化していくための活動体「九州しあわせ共創ラボ」（略称以下「Qラボ」）を発足いたしました。



九州しあわせ共創ラボ

地方は現在多くの社会課題を抱えており、九州でも多くの地域で人口減少と高齢化の影響が現れています。そして今年、九州は熊本地震で大きなダメージを受けました。

一方、7月末に実施した「Qラボ」のオリジナル調査（p2～掲載）の結果を見ると、“世界一住みやすい都市※”とされる東京と同等以上に、九州の人たちは「しあわせ」を実感していることがわかりました。

九州は今、他の地域にも増してこれからの暮らしを考えるタイミングであり、「これからの時代のしあわせのカタチ」を生み出していく土壌と可能性があると考えます。

今回発足した「Qラボ」は、九州の生活者の定量調査やヒアリング調査を行い、九州の生活者の意識や価値観を分析。その結果から「九州の生活者のしあわせの鍵」を紐解きます。さらに、この鍵を土台に「これからのしあわせ」につながるアイデアを生活者、企業、大学、行政等九州の人々と共に考え、実現することで、九州をさらに元気に、そしてしあわせにしていくことを目指します。

具体的な活動の第一弾として、生活者調査の分析レポートとしあわせの実践者インタビュー記事を掲載したオフィシャルサイト(q-lab.jp)で、月一回程度、定期的に発信していきます。

発足にあわせ、WEBサイトには本日より竹下製菓の竹下社長のインタビューを掲載しています。あわせてご覧ください。

※『MONOCLE』2016年版世界の住みやすい街ランキングより

【九州しあわせ共創ラボ 概要】

プロジェクトリーダー：松本裕介 1986年博報堂入社。マーケティングプランナーとして、数多くのクライアントのコミュニケーション、ブランド、事業、企業戦略業務に携わる。2012年より博報堂九州支社マーケティング部長。2016年より「博報堂生活総合研究所」客員研究員。

人数（発足時）：9名

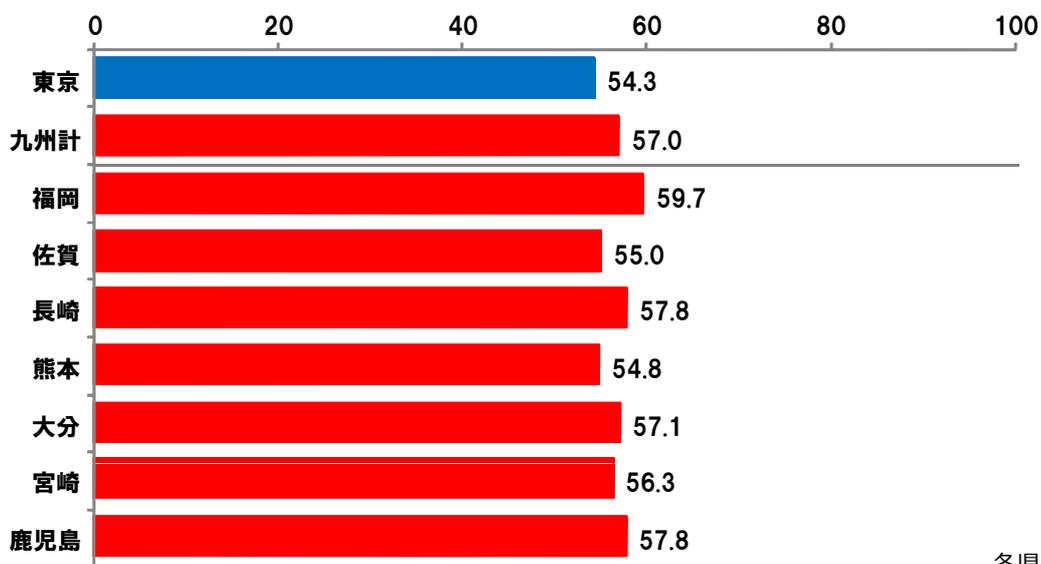
活動内容（発足時）：九州の生活者の意識や価値観を分析したオリジナル調査レポートの発行
九州しあわせ共創ラボ・オフィシャルサイトの運営

九州のしあわせ度は、東京にも負けていません。

「MONOCLE2016」で“世界一住みやすい都市”とされた「東京」よりも、「しあわせ度」は高くなっています。

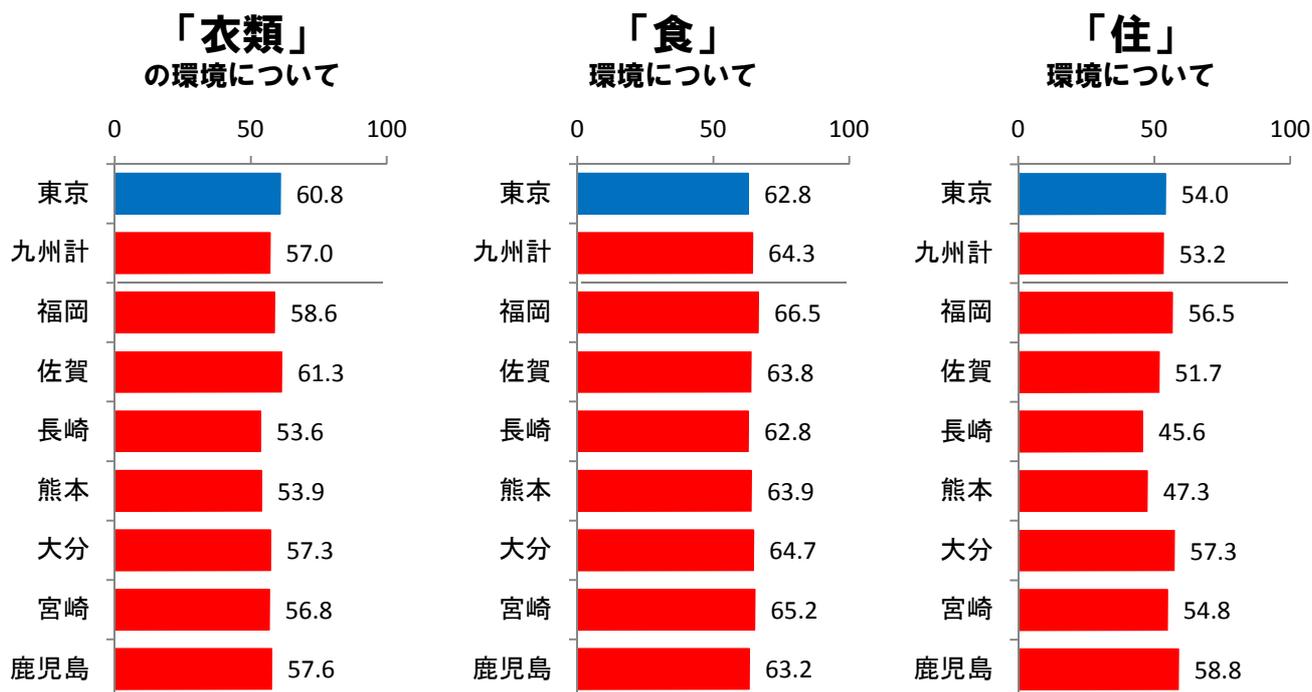
- 生活者がしあわせ度を100点満点で評価するしあわせ得点で見ると、九州のすべての県が、東京を上回っています。

Q. あなたの「しあわせ度」を、100点満点でいうと何点ですか



- 衣食住のすべての満足度も、九州トータルでは東京と同等のレベルにあります。

Q. 以下のそれぞれについて、どの程度満足していますか



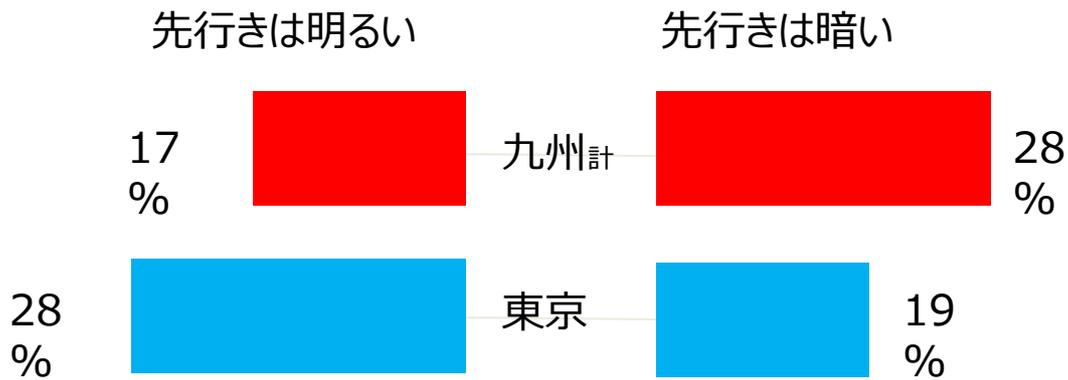
各項目「満足している」「やや満足している」の合計値

各県n=250

**その一方で、
九州の人が、明るい未来を描けていないことがわかりました。**

■九州の人は「九州の先行きは明るくない」と考えています。

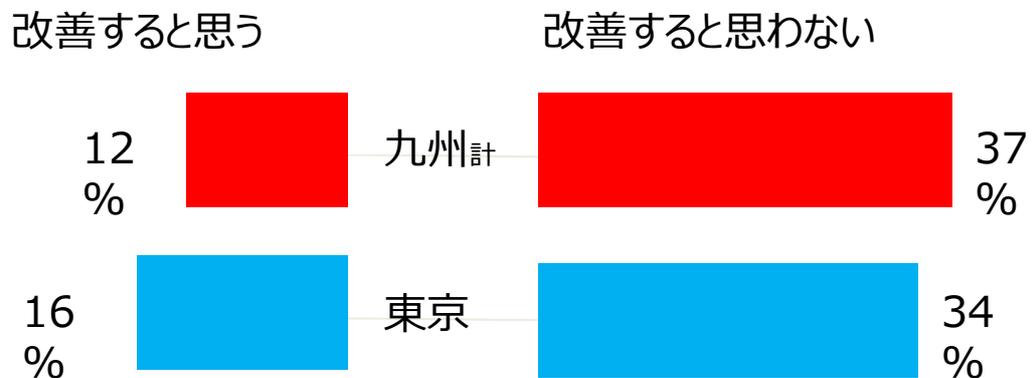
Q. あなたが暮らしている町の先行きは明るいですか、暗いですか。



九州n=1750、
東京250

■地方創生活動に対する期待も、まだ高くはありません。

Q. 地方創生の政策によって人口減少は改善すると思いますか。



しあわせを感じるシーンも、東京と比べて決して多くはありません。

「しあわせを感じる瞬間」は、東京を下回る項目が29項目中16項目と多いことがわかりました。逆に、東京を上回る項目は9項目です。

〔九州が東京より5ポイント以上下回る「しあわせを感じる瞬間」とその差〕

Q. あなたが「しあわせ」を感じるのはどういう時ですか。

	しあわせを感じる瞬間	九州計	東京	九州と東京のスコア差
#1	趣味やスポーツに打ち込んでいるとき	30%	40%	-10pt
#2	他人と気持ちを共有できたとき	38%	47%	-9pt
#3	親しい人のために役にたっていると実感できたとき	45%	53%	-8pt
#4	世の中のために役にたっていると実感できたとき	31%	39%	-8pt
#5	友達と一緒にいるとき	28%	34%	-6pt



「明るい未来が描けていなく」、「しあわせを感じるシーンが少ない」
にも関わらず、

“東京に負けない高いレベルのしあわせ”が実感されているのは、なぜでしょうか？

九州には、どのような「しあわせの鍵」があるのでしょうか？

実際に、九州の生活者には、東京と比較して様々な特徴がみられます。

「人付き合いより、**自分で**考えるのが得意」

九州計 東京
40% > 30%

「自分の立場を大切にすより、**自分の役割**を大切する」

九州計 東京
30% > 23%

「週末は**家族と一緒に過ごすことが多い**」

九州計 東京
38% > 31%

「暮らしている**まちをよりよくするための活動アイデア**を持っている
or 暮らしているまちをよりよくするために考えていることがある」

九州計 東京
24% > 18%

「暮らしている**まちをよりよくするための活動を行っている**
or 行ったことがある」

九州計 東京
28% > 18%

これらが、九州の「しあわせの鍵」を紐解くための材料になるかもしれません。

あとがき

調査結果を見ると、九州の人々は、身近なところから生活を捉えているようです。そのため、生活で感じるしあわせも、より身近で、より自分ごととして深く実感出来ているのではないのでしょうか。“リアルなしあわせ”というのが九州の「しあわせの鍵」の一つかもしれません。

今回は全体の特徴をとらえるために、九州トータルのデータをご紹介します。
県別、性年齢別、しあわせ度合い別等でみると、また別の「しあわせの鍵」が見えてきます。

Qラボは今後

- ・本調査を、様々な切り口で分析する。
- ・新しい調査やインタビューを行う。
- ・調査から見てきた「しあわせの鍵」を具現化するアイデアを様々な人たちと共創するといった活動を行っていきます。

Qラボ調査レポート 調査概要

調査手法：	インターネット調査
調査地域：	九州7県と東京都
調査対象者：	18から69歳の男女、一般生活者
サンプル数：	2,000サンプル 各都県250サンプル（男女各125名、18-29歳、30-49歳、50-69歳 各41-42名）
調査時期：	2016年7月29日 ～ 8月3日
調査機関：	楽天リサーチ株式会社